

令和元年度（2019年度） 厚生常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和元年（2019年）8月7日（水）
- 2 視察者 厚生常任委員会委員（7名）
内野幸喜（委員長）、西山宗孝（副委員長）、藤川隆夫、末松直洋、山本伸裕、松野明美、荒川知章

3 視察の概要

(1) 社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会（熊本市）

同協議会は、昭和24年に母子寡婦支援を目的として設立された福祉団体で、現在では、ひとり親家庭支援にも取り組んでいる。昨年度、熊本地震で倒壊した拠点施設を再建し、名称を「熊本県ひとり親家庭福祉協議会（てとてとて）」と新たにして支援事業に取り組んでいる。



今回の視察では、学習教室や就業支援講座などのひとり親家庭に対する支援事業等について説明を受け、意見交換を行うとともに、母子・父子休養ホーム「しらゆり」を視察した。

同協議会からは、母子父子会員の増加に伴い、寡婦会員中心だった会運営から母子父子会員に向けた事業を活発に行っていく過渡期にあるとの説明があった。

(2) 熊本県北部発達障がい者支援センター「わっふる」（菊池郡大津町）

同センターは、発達障害者支援法に規定された専門的な相談支援機関であり、熊本県北部地域（熊本市を除く）の発達障害の特性を持つ方及び関係者に対する支援を行っている。

今回の視察では、同センターにおける相談及び支援の現状と、発達障害児の診療待機期間の短縮を目的とした取り組みを視察した。



相談件数は年々増加しており、当事者及び家族のみでなく、支援機関からの相談や支援のニーズが高まっているとのことであった。また、今年度は、従来の相談支援業務に加えて、診療待機期間の短縮を目的に、専門心理士を1名配置して相談を受けているとの説明があった。

(3) 清水が丘学園（熊本市）

同園は、児童福祉法に定める児童自立支援施設として設置され、不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境等により生活指導等を要する児童を入所させ、指導を行い、自立を支援することを目的として運営されている。

今回の視察では、良好な家庭的環境を目指して施設のあり方や整備を検討している同園の現状と、入所児童に対する自立支援の取り組みについて視察した。

同園では、最近、発達障害を持つ児童の入所が増える傾向にあるが、そういった個別対応が必要な児童に対する施設の機能が不足しているなどの課題について説明を受け、意見交換を行うとともに、管理棟、学習棟及び男子寮を見学した。



(4) 特別養護老人ホーム「天寿園」（熊本市）

同園は、熊本市西区で老人福祉施設等を展開している社会福祉法人寿量会により設置、運営されている特別養護老人ホームであり、今年度、国と関係団体により実施されている介護現場革新会議のパイロット事業モデル施設となっている。

今回の視察では、ICTの活用等によるモデル事業への取り組みを視察した。

同園では、パイロット事業のモデル施設として、ICT機器の導入によるゆとりをもった介護現場を構築することで、利用者へのサービス向上を目指しているとの説明があった。また、今年度は、ミャンマーから介護技能実習生2名を受け入れているが、実習生は声かけの声も大きく、入所者の方にスムーズに受け入れられているとの説明があり、その後、実際の介護現場を視察した。

